

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

1 事務事業に関する基本情報					令和	5	年度
事業番号	52		事業名	地方創生推進事業			
担当課	企画課		担当係	地域戦略室	担当者	小川 博考	
総合計画に最も 関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり(産業、観光、雇用)		連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	4	連携・交流の推進		事業区分	■新規 □継続	
	主な事業	地方創生推進交付金事業(1市6町、若桜鉄道)					
予算区分	款	2	総務費		事業実施 主体	■八頭町 □その他	
	項	1	総務管理費				
	目	16	地方創生対策費		計画期間	開始	
	事業	52	地方創生推進事業			終了	

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 ・町民				
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 ・人口減少を抑制するため、各事業について近隣自治体と連携して取り組む。				
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、また、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 ・【1市6町連携事業】麒麟のまち圏域観光交流人口増加対策事業、情報発信事業 ・【若桜鉄道連携事業】若桜鉄道を活用した観光推進事業 ・【1市6町連携事業】観光交流人口の増加対策及び移住促進について、各構成市町が連携して事業を実施するもの。八頭町においては、様々なイベント事業等による観光情報発信などの取組を実施し、観光振興を図る。 ・【若桜鉄道連携事業】若桜町と連携して事業実施するもの。利便性の向上と観光列車を活用した観光客誘客を図るとともに、オリジナルグッズ等を活用したPR事業を展開する。				
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 ・観光交流人口の増加を通じた域内の活性化等による地方創生の実現。				
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→ 地域再生法、デジタル田園都市国家構想交付金制度要綱

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし	
	A	人	観光入込客数	
	B	件	ホームページアクセス数	
	C			
	D			
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし	
	A	人	観光入込客数	
	B	件	ホームページアクセス数	
	C			
	D			

4 コスト

区分			R2年度	R3年度	R4年度		R5年度		R6年度
		単位	実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	539,000	624,000	750,000	761,000	750,000	754,000	750,000
	B	件	320,485	388,268	390,000	455,911	500,000	882,782	550,000
	C								
	D								
成果指標	A	人	539,000	624,000	750,000	761,000	750,000	754,000	750,000
	B	件	320,485	388,268	390,000	455,911	500,000	882,782	550,000
	C								
	D								
トータルコスト		千円	41,244	42,767	47,260	45,588	43,845	41,710	47,605
担当職員数		人	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
職員人件費		千円	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
事業費		千円	17,244	18,767	23,260	21,588	19,845	17,710	23,605
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	9,654	11,637	11,563	10,044	9,817	8,107	10,142
	県支出金(交付金・補助金)	千円							0
	地方債(借入金)	千円	3,400	2,200	2,700	2,000	1,000	1,000	3,500
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							0
	一般財源(単町費)	千円	4,190	4,930	8,997	9,544	9,028	8,603	9,963

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 5 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	・「第2次八頭町総合計画(後期計画)」・「八頭町人口ビジョン」を踏まえ令和2年3月に策定した「第2期八頭町総合戦略」(計画期間:令和2年度～令和6年度)において人口減少対策と地方創生のための施策を定め、子育て施策や移住施策、地域産業の振興策を実施していくこととしている。
	成果(具体的に) ・「第2期八頭町総合戦略」に基づく施策の効果を測定するため定めた26の重要業績評価指標(KPI)のうち令和5年度末現在で15の項目で達成しており、その達成率は58%となっているほか、目標を達成していない項目においても、施策の目的達成に向けた取組が進んでおり、当該戦略検証のために第三者機関として設置されている「八頭町総合戦略検証委員会」においても取組状況について良い評価をいただいている。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	・本事業は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の「まち・ひと・仕事創生長期ビジョン」及び「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案して策定した「第2期八頭町総合戦略」に基づき実施している事業であり、国の地域再生計画の認定等を受けて、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用して実施していくものである。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	・平成27年に本町における当初の総合戦略を策定し、人口減少対策と地方創生のための取組を、鳥取市等麒麟のまち圏域や本町の基幹交通である若桜鉄道を共有する若桜町との連携を図りながら実施してきたところであり、観光誘客数の増加、人口減少の抑制等一定の効果を得られたところである。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	一方、全国的に東京圏への人口の一極集中は今もってなお改善される見込みがなく、少子高齢化により日本全体が人口減少が加速度的に進んでいる状態にあり、このような世情に鑑みて、当該取組については、引き続き広域的な連携による事業効果の最大化を図りつつ、実施していく必要がある。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	20	20	①緊急性が高い	
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所) ・コロナ禍により、観光入込客等影響を受けたところであるが、アフターコロナにより人の流れが活況となっていることから、いかに当町へ引き込んでいくかが課題。 ・一方で、コロナ禍により転職なき移住など人々の働き方も見直され、地方移住のハードルも下がりつつあることから、当町の魅力を積極的に発信し、移住者増につなげていく必要がある。 (上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか) ・積極的な広報や観光誘客活動を通じた当町の関係人口の拡大と地域における子育て環境等の充実や観光資源の磨き上げを両輪で行い、町内人口の一定数の確保と地域の活性化を図っていく。
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	